

2020年7月6日
渋谷スクランブルスクエア株式会社

渋谷駅直結・直上！地上47階建ての新ランドマーク「渋谷スクランブルスクエア」15階

**「渋谷から世界へ問いかける、可能性の交差点」SHIBUYA QWS
開業から250日で、累計67チームのプロジェクト活動を支援
新たな可能性を目指し、現在約40チームのプロジェクトが活動中**

- 「東京藝術大学」「JICA」などとの連携が決定、新たな取り組みがスタート！
アート領域や国際的な活動も今後加速！
- 未来の価値を創造し、発信する「QWSステージ」をオンラインで開催！

渋谷スクランブルスクエア株式会社が2019年11月1日（金）に開業した、渋谷エリアで最も高い約230m、地上47階建ての大規模複合施設「渋谷スクランブルスクエア」15階に位置する共創施設「SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）」（以下、QWS）から、最新の情報をお届けします。

※「渋谷スクランブルスクエア」は、14階・45階～屋上の展望施設「SHIBUYA SKY（渋谷スカイ）」、17階～45階のオフィス、15階の共創施設「SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）」、地下2階～14階の商業施設ショップ＆レストランで構成されます。

QWSは、多様な人々が交差・交流し、社会価値につながる種を生み出す会員制の共創施設として、「渋谷から世界へ問いかける、可能性の交差点」をコンセプトとしています。物事の本質を探究し、常に問い続けることが、新しい価値につながる原点になると考えており、「Question with sensibility（問いの感性）」の頭文字をとって、施設名称を「SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）」としました。

年齢・職業・国籍にとらわれない多様なプロジェクトが活動中

会員属性は14才～91才とまさに多世代で、会社員、学生、研究者、公務員、クリエイター、フリーランス、主婦など多岐にわたります。また、開業から2020年7月7日（火）で250日を迎え、今までに累計67チームのプロジェクト活動が行われ、現在は約40チームが未来の価値を創造するプロジェクト活動をしています。

アート領域や国際的な連携パートナーとの取り組みが決定

QWSでは、施設に集う多種多様な人が交差・交流し、化学変化が起きることによって新しい社会価値が創出されることを目指しており、多様性に富んだコミュニティであることを大切にしています。この度、アートの領域で「東京藝術大学」や「INERTIA（イナーシャ）」、また、日本のみならず国際的なフィールドで活動を展開する「JICA」「Hult Prize」「Social Impact Lab Japan」と新たに連携パートナーとして取り組むことが決定いたしました。2020年7月6日（月）には、15FのQWSに隣接する区画に「INERTIA（スタジオ&ギャラリー）」がオープンします。



INERTIA



**HULT
PRIZE**



新たな可能性、オンラインでさまざまなプロジェクト活動を支援

QWSは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言を受けて、2020年4月8日（水）から5月31日（日）まで休館しておりましたが、6月1日（月）より営業を再開しました。リアルな活動場所が提供出来なかった期間中にも会員専用アプリやさまざまなオンラインツールを活用し、プロジェクトを支援するセミナーやメンタリング、ミートアップ、ワークショップなど、80を超える問いを起点としたイベントや会員同士のコミュニティ活動を日々継続して実施し、オンライン施策をまじえた新しい形のコミュニティの可能性を発見しました。

「#問いは止まらない」 SHIBUYA QWS エグゼクティブディレクター 野村幸雄コメント

「当初、QWS は密集・密接な状況を作り出すために施設レイアウトを設計し、プログラムやイベントも企画・実行してきました。これによりプロジェクトの推進と支援を行ってききましたが、新型コロナウイルスにより臨時休館とせざるを得ない状況となり、QWS の提供するサービスや活動しているプロジェクト自体も大幅な変更が求められました。そんな中、問いの感性をいかに休館時でも会員の皆さんに持ち続けていただけるかを焦点に「#問いは止まらない」を掲げ、オンラインにてさまざまなプログラムやイベントの提供を開始しました。オンライン化によりこれまで渋谷の QWS に来なければ得られない知や情報、ネットワークが地方や海外からでもアクセスできるようになり、QWS が持っていたポテンシャルが更に拡張していく可能性が得られました。QWS で活動するプロジェクトも新型コロナウイルスによりピボットを余儀なくされるケースもありましたが、6月19日（金）の活動の成果発表会である QWS ステージには 19 ものプロジェクトが参加しました。新型コロナウイルスの影響で社会は大きな過渡期にあり、人々のライフスタイルや価値観が変わろうとしています。そんな時だからこそ問いを止めずに新たな社会価値の創出に挑戦することが求められていて、それを支援する役割を QWS は担いたいと考えております。」



※QWS でプロジェクト活動を行うメンバーが QWS の支援者コミュニティに所属する先輩起業家や専門家、投資家などにプロジェクトの相談をできるイベント「スクランブルミーティング」の様子。

※ワークショップやイベント、アカデミックリサーチの支援などを通して、「問う」力や感性を耕しながら問いの可能性を広げていく「QWS カルティベーションプログラム」では、MURAL というデジタルワークスペースを使用し、ワークショップを開催しました。

Topics

- アート領域における新たな取組みとして、「東京藝術大学」との連携や「INERTIA」入居が決定
- 「JICA」「Hult Prize」「Social Impact Lab Japan」など国際的に活動を行う団体とも取組みを開始

東京藝術大学と連携協定を締結

QWS では既に連携協定を締結している5大学（東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学）に加え、新たに東京藝術大学と連携協定を締結いたしました。QWSと東京藝術大学は、渋谷に集まる多種多様なユーザーや企業などと連携し、「QWS アカデミア」など産学連携プログラムなどを実施することにより、技術分野を超えた新しい発想による知の融合、ユーザー目線のアイデアとの技術的知見の融合、新しいビジネスモデルの創出を目指します。また、クリエイティブ人材の育成を行います。



「QWS アカデミア」とは

大学と連携した「問い」と出会うためのプログラムです。大学には多様な「問い」と向き合う研究者やプレイヤーがいます。「QWS アカデミア」は、単に知識が伝達される授業ではなく、双方向に刺激を与え合い、化学反応を生み出すことを目指しています。2019年11月の開業以来、QWSでは大学と連携しながら「QWS アカデミア」として計28回のイベントを実施しています。（原則毎週水曜日開催）

●位置図



2020年7月6日（月）、「INERTIA（スタジオ&ギャラリー）」がオープン

15FのQWSに隣接する区画に、株式会社INERTIAがスタジオ&ギャラリーとして入居します。関連会社であるhiromiyoshii(ヒロミヨシイ)がこれまで行ってきた現代アートの作品の展示に加えて、「アート&サイエンス・テクノロジー」としての作品も展示をいたします。また、学生や法人向けのプログラミング教材「easel」に関するトークイベントやワークショップなどを実施および配信します。

●アート&サイエンス・テクノロジーギャラリーのビューイングルーム

アート作品を展示するスペースでは、アポイントがある方に作品を限定公開します。作品鑑賞希望の方は事前に予約をすれば、基本的にどなたでもアポイントを取ることが可能です。

※展示作品は1~2か月のサイクルで、定期的に展示替えを行う予定。

●INERTIA TALK 及び INERTIA WORKSHOP の配信スタジオ

これまで INERTIA が開催してきた“INERTIA TALK”といったトークイベントを行うことに加えて、このスタジオからイベントやワークショップの配信も実施します。

※INERTIA が開発しているプログラミング教材「easel」のワークショップも同様に配信。

●QWS と連携した取り組みについて

QWS 内に展示するアート作品のディレクションおよび QWS でアートに関わる制作を行うアーティストについて、アート作品の委託販売やアドバイスをいたします。また、QWS と共同でイベントやプログラムを企画するなど、QWS 全体をアート&サイエンス・テクノロジーのギャラリー、また文化芸術の発信拠点としても、ともに創り上げていきます。

●株式会社 INERTIA 代表取締役社長 吉井仁実氏コメント

「100年に1度の再開発と言われるほど、今新しく生まれ変わろうとしている渋谷。そして多様なバックグラウンドを持つ魅力的なプレイヤーが集まるこの SHIBUYA QWS という空間で、我々はアートを通じて、未来や社会、そして人々の感性にメッセージを発信します。QWS=“Question with sensibility”、「問いの感性」をアートを通じて共に育んでいきましょう。」



JICA をはじめ、国内外で活躍する団体が連携パートナーとして参画決定

国内外で活動を幅広く行う JICA（ジャイカ）、Hult Prize、Social Impact Lab Japan が新たに PROGRAM AND COMMUNITY PARTNER に加わりました。QWS では領域を横断し、国内外のさまざまなプレイヤーと連携することで価値創造活動を加速していきます。

●JICA との取り組みについて

独立行政法人国際協力機構（JICA/ジャイカ）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行う団体です。JICA が主催し、途上国での SDGs の多様な課題解決に向けて、共創により生まれたアイデアを磨く、オープンイノベーション「JICA Innovation Quest」の活動拠点として QWS が活用されるとともに、QWS と JICA でオリジナルのプログラムなどを企画・実施いたします。この取り組みによって、QWS の会員やプログラム参加者が国際課題と触れる機会を提供し、「問い」の視点を世界へ向けることを目指します。

●Hult Prize との取り組みについて

Hult Prize（ハルト・プライズ）は毎年世界約 121 カ国の 3000 以上の大学から 100 万人以上の大学生が参加する SDGs をテーマにしたグローバルなビジネスコンテストです。優勝チームには実際に SDGs の課題解決を行う事業を興すために賞金 1 億円が授与されます。QWS では、日本におけるリージョナル大会の開催に協力するなど Hult Prize の活動と連携を行っていきます。また、Hult Prize と連携をした英語でのアントレプレナーシップ教育プログラムの開催などを予定しています。

●Social Impact Lab Japan との取り組みについて

Social Impact Lab Japan は日本において社会起業家のアイデア創出とアクセラレーションを行うために設立された団体です。多くの学生が大学への進学から大手企業への就職という選択肢を選んでいる日本において、社会に大きなインパクトを与える社会起業家を志すきっかけとなるアントレプレナーシップ 講座を提供しています。QWS では Social Impact Lab Japan との協力やプログラムやイベント企画において連携を行う予定です。

【連携パートナー】（順不同）

ACADEMIC PARTNER

東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学、東京藝術大学

PROGRAM AND COMMUNITY PARTNER

株式会社ロフトワーク、EDGEof、NPO法人ETIC.、株式会社ミクリデザイン、一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL、株式会社東急エージェンシー、フォースタートアップス株式会社、HAX Tokyo、株式会社日本政策投資銀行、株式会社CAMPFIRE、株式会社INERTIA、独立行政法人国際協力機構、Hult Prize Japan株式会社、Social Impact Lab Japan

QWS BOOSTER PARTNER

G's ACADEMY TOKYO、Peatix Japan株式会社、みらいコンサルティンググループ、三浦法律事務所、Scrum Ventures、株式会社Public dots & Company

Topics

■「新たな社会価値につながる可能性の種」

プロジェクトの成果発表を行う、QWSステージを2020年6月19日（金）に開催

「QWS ステージ」とは

QWS でプロジェクト活動に取り組んでいる会員がそれぞれの活動の中でみつけた「新たな社会価値につながる可能性の種」のプロトタイプや、活動の成果を発表するイベント「QWS ステージ」を2020年6月19日（金）に開催しました。イベントは招待制でライブ配信を行い、起業家、投資家、メディア関係者など約150名の方にオンラインでご参加をいただきました。発表は19チームが各3分間のプレゼンテーションを行いました。



QWS ステージで発表したプロジェクト（一部抜粋）

■プロジェクト名：shibuya hiryou（渋谷肥料） <https://youtu.be/DRETeStwWAE>

問い：渋谷を「消費の終着点」から「新しい循環の出発点」にシフトできないか？

概要：卸売店・小売店・飲食店・宿泊施設などの事業ごみが全体の7割を占める渋谷。そうした店舗から出る生ゴミを再利用してゴミの発生しないプロダクトを作るなど、循環型経済につながる仕組みをつくり、渋谷を「消費の終点」から「新しい循環の出発点」にシフトしていくことを目指します。

■プロジェクト名：ランゲルハンス <https://youtu.be/UvxKfcBEP-Y>

問い：患者は健常者を超えられるか？

概要：1型糖尿病などの慢性疾患を抱える人が、“患者”であるということをプラスに転換していくことを目指すプロジェクト。IoT デバイスや AI 技術を活用して「血糖値管理の簡易化・自動化」や「血糖値データの治療以外への応用(仕事生産性向上やダイエット)」などに取り組むことで、過去の自分や健常者より健康な状態を作ることを目指します。

■プロジェクト名：Creace <https://youtu.be/OWgLaGnZ5g4>

問い：なぜ人は保守的なのか？

概要：AR アプリの“STATION”というサービスを開発。街中に AR で表示されるアイコンをスマホでかざすことによって、写真を投稿したり、イベントに活用することができます。ユーザー側の自由度が高い AR アプリにすることで、ユーザー側が自主的にさまざまな活用ができることを目指しています。

■プロジェクト名：bitobito Japan <https://youtu.be/XgIIDgcrHzc>

問い：日本人をやめてみたらどうなる？

概要：少子高齢化や人口減少による人手不足を背景に、外国からの移民が年々増加していくことが予測される日本。一方で、日本を訪れる外国人は「言語の壁」だけでなく、日本人が抱える“世間（一般論、常識論）”という価値観によって強い文化の壁を感じるといいます。そうした問題意識を起点に、外国人が働く場での研修プログラム提供などを検討しています。

■プロジェクト名：Home. <https://youtu.be/aHxv-aHKOFU>

問い：30人でシェアハウスすると何が起きる？

概要：空き家となっている家などを“セカンドホーム”的にシェアハウスすることで、コミュニティや居場所、コラボレーションなどが生まれ、ソフトとハード面でさまざまな家の在り方や使われ方を模索しながら、「家自体を育てていく」プロジェクトです。

■QWS ステージの全編動画はこちら <https://youtu.be/anxhhWvQqEE>

【共創施設「SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）」 安心・安全への取り組み】

■施設としての取り組み

- ・従業員の勤務前の検温、健康チェックの実施
- ・従業員へのマスクの着用と手洗い・手指消毒・うがい徹底の励行
- ・アクリル板の設置などの飛沫飛散対策の実施
- ・出入口にアルコール消毒液の設置、消毒液を用いた清掃の強化
- ・机・椅子などの間引き、エリアごとの制限人数の設定
- ・お手洗い内のジェットタオルの利用を中止
- ・QWS主催のプログラム・イベントは、オンラインイベントなど3密を避けて開催
- ・イベント主催者へコロナ感染防止策実施の徹底
- ・SCRAMBLE HALL におけるイベントは、東京都ロードマップなどを踏まえた運用ガイドラインを遵守

■会員・来館者へのお願い

- ・館内におけるお客様同士、また従業員との一定の距離の確保をお願いします
- ・ご来館の際は、マスクの着用、入口での検温にご協力ください
- ・体調がすぐれない場合のご来館を見合わせてください
- ・混雑時における入場制限実施にご理解とご協力をお願いします

※詳しくは、オフィシャル WEB サイトや施設内にて掲示している案内サインなどでご確認ください。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

<施設概要>

- 名称： 渋谷スクランブルスクエア／SHIBUYA SCRAMBLE SQUARE
事業主体： 東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)
所在： 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 24 番 12 号
用途： 事務所、店舗、展望施設、駐車場など
延床面積： 第Ⅰ期（東棟）約 181,000 ㎡、第Ⅱ期（中央棟・西棟）約 96,000 ㎡
階数： 第Ⅰ期（東棟）地上 47 階 地下 7 階、
第Ⅱ期（中央棟）地上 10 階 地下 2 階、（西棟）地上 13 階 地下 5 階
高さ： 第Ⅰ期（東棟）約 230m、第Ⅱ期（中央棟）約 61m、（西棟）約 76m
設計者： 渋谷駅周辺整備計画共同企業体
※(株)日建設計、(株)東急設計コンサルタント、(株)JR 東日本建築設計、
メトロ開発(株)
デザイナー・アークト： (株)日建設計、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)SANAA 事務所
運営会社： 渋谷スクランブルスクエア(株)
※東急(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)の 3 社共同出資
開業： 第Ⅰ期（東棟）2019 年 11 月 1 日
第Ⅱ期（中央棟・西棟）2027 年度
U R L： <https://www.shibuya-scramble-square.com>



▲渋谷スクランブルスクエア外観